

福祉教育常任委員会行政視察報告書

視察日時 令和8年1月28日(水)～29日(木) 1泊2日

視察先 兵庫県明石市、広島県尾道市

議員：小林義典委員長、松井圭子副委員長、藤川みゆき委員、永田誠治委員
副田悦子委員、寺元正幸委員

市職員：竹内範行こども未来応援部長

議会事務局：川瀬奈央

視察内容：兵庫県明石市

*校内フリースペースについて

目的と位置付けは、子供一人一人の状況や学校の実情に応じて、安心して過ごせる空間として運営することが目的である。校内の多様な居場所として、学校生活や学習をサポートし、社会的自立に向けた支援を行う場とされている。

「所感」

- ・市内大方の小中学校で取り入れられていることは、子供たちにとってはありがたいことと考える。
- ・不登校や行き渋りなど、現代社会の縮図とみるが課題は一様にある。
- ・子供たちの心に寄り添い立派に巣立って行く事を望みたいです。
- ・湖南市は、先生や地域コーディネーター、家庭支援員が忙しい業務のなか行っているの、しっかり人員を配置されていることは羨ましい。
- ・フリースペースを利用する児童生徒の線引きを校内でどれだけ共有、学年をまたがって整理運用して行けるかといった校内体制の在り方が鍵になる。
- ・定期的かつ持続的な関わりと、ここぞというときの支援のアドバイスが必要になる。
- ・半世紀前の時代は、すべての情報を得るのは家庭・友達・近隣住民・学校など、顔を見知った人の言葉がすべての情報源でした。今の子供たちは情報過多で心が休まらず、不安を感じているのではないかと思います。
- ・民間のフリースクールが9か所もある。湖南市内にフリースクールが1か所でもあれば、市外のフリースクールに通わなくてもいいのという声を聞く。市内での開設を考えていないのであれば、まずは、不登校担当職員の研修会を実施して、校内フリースペースの開設に向けての下準備が必要ではないかと感じた。

*あかし里親 100%プロジェクトについて

「すべての子供に家庭のぬくもりを」という理念のもと、里親家庭を増やすための取り組みである。保護者の病気や虐待、離婚などの事情で家庭で暮らせない子供を、施設だけでなく家庭的な環境で育てられるようにすることが目的。明石市内 28 小学校すべてに里親家庭がある状態を目指している。特に乳幼児について、家庭的養育「里親委託」の割合を高めることを目的にしている。

「所感」

- ・中核市児相の開設によって、都道府県児相の連携の滞りが解消される。また、子育て支援センターと子ども図書館の併設によって、保護者の相談の心の壁も下げていると考えられる。
- ・里親担当が設置されているが、地域での子供、並びに子育てをしている親の支援を地域で底上げしていく仕組みに他ならないと考える。
- ・里親の研修など事前準備がしっかり考えられていて本気度が伺えます。
- ・里親 100%プロジェクトに賛同される里親に頭が下がる思いで、湖南市においても参考になる取り組みである。
- ・地域で子育てをするお手本のような取り組みで、見本となる施策である。
- ・里親説明会、里親相談会、里親講座・研修など里親になっても、きめ細かい支援をされています。里親を希望する家族が安心して登録できる仕組みができていて良いと感じた。
- ・就学前なら、まだ受け入れやすいと思いますが、学齢期、特に高学年となると里親家庭でなく支える体制の充実が必要となるので厳しいでしょうが、子供たちにとっては、家庭的な環境での育ちというのは、いつの段階であっても必要であり、自己肯定感を上げるためにも、将来への展望を持つためにも必要となってくる。

視察内容：広島県尾道市

*子どもの居場所支援事業（子ども第三の居場所）について

家庭や学校以外に安心して過ごせる場所を作り、学習・生活・食事などを通じて子供と保護者を支える取り組みである。事業の目的としては、子供が夢と希望をもって成長できるようにする。朝食欠食・学習習慣の欠如・相談相手の不在など、生活や学習面の課題を改善し、貧困の連鎖を断ち切ること。子育て家庭が地域で孤立せず、安心して子供を育てられる環境を整えること。

「所感」

- ・人、物、金、この三つのどの部分も必要不可欠であり、今後ますます少子化が進む中、子育ては家庭や保護者はもちろん、地域や社会が担うべきであると思います。将来に良き遺産を。
- ・市と地域、支援者、支援団体との連携体制の強化を図りながら、子供が安心して過ごせる居場所の提供を行っている。すべての子供が食に困らない社会の実現を目指し、すべての地域で、必要な方に食品を提供できるよう、フードパートナーの拡大とフードパントリーの増設に取り組むなど、この取り組みの説明を受けて地方自治体のあるべき姿と考えます。
- ・学校からの送迎があるのも保護者にとっては安心で、子育て支援の一環になっている市内の横断的なプロジェクト体制が素晴らしく、本市でも体制づくりの強化をしていただきたい。
- ・取組後の変化をつかんでいるかの質問については、必要かと思うので精査検討していくとの前向きな返答を頂き対応の柔軟性を感じた。
- ・交付金や補助金などを財源にアプリ開発を当初予算に計上し、うまくフードパントリーを稼働されている。学級閉鎖などで不要となった学校給食の材料も破棄せず、パントリーへ、また、企業の廃棄ゼロの手助けともなっている。
- ・第3の居場所の対象校が小学校10校・中学校2校と全域ではないので、今後増やしていくとの事。近隣であれば受け入れているとのこと。学校に子供を職員が迎えに行き、帰りは保護者がb&gに迎えに行くなどの配慮がある。